

1974年にスクラップおよび非鉄金属の行商として創業して以来、非鉄金属スクラップの再資源化事業を行っている協同商店（中央区南橋本）。SDGsが声高に叫ばれる以前から、循環型社会の実現を目指すべく、再利用可能な資源の収集・分別・加工・再提供により、“リデュース・リユース・リサイクル”に全力を挙げて取り組んでいます。今年3月には米国製のベラーマシンを導入するなど、設備投資にも積極的です。一方で、社長自らも現場に赴き、取引先の声に耳を傾けながら、地道な信頼関係を築くことも変わらずに大切にしています。社長の片腕として組織を支え続ける、木村大輔常務取締役役にご話を聞きました。

「まずは事業内容について教えてください。」

「アルミや銅、ステンレスをはじめとする非鉄金属の再資源化を行っています。年間取扱量は約3000〜3500トで、国内の製造業や回収業者を中心に仕入れ先600社以上、提供先100社以上と取引をさせていただいています。現在、市内に3つの事業所を構え、受け入れ・加工・ストックと各工程に特化することで効率化を図っています」

「当社の強みは、プラスチックといった異物が付着している複合状態の素材など、他社が敬遠するような金属スクラップも幅広く受け入れていることです。相場や為替レートによって一時的な利益を求める競合他社がいる中で、処分に困っている業者様に寄り添いながら、金属スクラップの最大価値を引き出す努力を続けています。『現場主義』にもこだわっています。特に営業の人員を置かず、現場での実績や経験を生かし、取引先企業

様と信頼関係を築きながら、次の仕事につなげています」

「新たな設備を導入するなど設備投資にも積極的です。」

「今回、第2ヤードにアルミスクラッ

徹底的な現場主義で 非鉄金属の再資源化を

新たな設備導入で効率化も

プを圧縮梱包するベラーマシンを米国から調達しました。コロナ禍で到着が予定より大幅に遅れ、ようやく3月から本格稼働させることができました。この設備を使い、油圧プレスで減容・圧縮した後、ワイヤーで結束する『ベール品』にしていきます。従来の方法に比べ、金属スクラップが分解して加工しやすいのが



特徴です。トラックやコンテナのサイズに合わせた大きさに仕上げられるので、輸送コストの削減も図れます。当社にと

によって、半自動化が図れるようになりました」

「今後、力を入れたいことを教えてください。」

「今後も相場や為替レートに振り回されることなく、まだ他が注目していない商材なども回収しながら、再資源化に向けて最大限努めていくつもりです。そのためにも、どのような付加価値が付くかを見極められる力をつける必要があります。また、法律に基づいて対応を変えなければならぬ場面も多々あります。常に『アップデート』しながらお客様に新たな提案ができるようにしたいと思っています。人材確保も課題です。きつい仕事ではありませんが、従業員たちが『ここで働いて良かった』と思えるように、今後も日々のコミュニケーションを大切にしていきたいです」

つても、事業所間の移動やストックスペースの効率化など、処理効率が上がリ、作業負担が減りました」

「スクラップの選別作業を効率化するためのシュレッダー（破砕機）も導入しました。以前は顧客から購入・回収した有価物を手作業メインで分解しながら分別していましたが、シュレッダーの運用

（株）協同商店
常務取締役 **木村 大輔**さん